



パスターさんから報告を聞く

前号でノーベル平和賞受賞者ユヌス氏に関連して、PFPPのマイクロファイナンス計画の話が出ました。これに協力を申し出てくださる会員の方がおり、PFPP代

表のルディ・パスターさんと会合を持ちました。

本職は銀行マンだったパスターさんはグラミン銀行の理念に共鳴して3年前に銀行を退職し、ミンダナオ中部のブトゥアン市で仲間とマイクロファイナンスの活動を始めました。今回私たちに協力を打診したのは、新規にコロナダル近郊でも事業を展開するに当たって、新たな原資を求めてのことです。資金提供者の理解を得て、収益の一部をPFPP運営の自主財源に充当し、PFPPの先住民族支援活動継続を保証する財政基盤を確立するという目的もあります。

新規事業はまだ1ヶ月しか経過していませんでしたが詳細な報告書が用意されており、マネジメントは十分信頼できるという印象を持ちました。

融資先はコロナダル公設マーケットで魚や野菜等売って日銭を稼ぐ女性たち56人。ほとんどが5,000ペソ(約13,000円)を3ヶ月間借りるケースです。月2.5%は、結構高利のようですが、市中の金融業者の10-12%に比べればかなり低い利率です。その日の稼ぎの中から、毎日返済するので無理がなく、今のところ滞納はないようです。借り手に研修や商売の助言をしながらの無理のない融資であり、今後に期待がもてます。

将来的には先住民族の村でも

現金収入がない山岳部先住民族の村に、マイクロファイナンスが普及するのはかなり先のことでしょうが、PFPPは都市部で実績を作ってから山岳部での実施を考えています。住民が始業資金(商品仕入金)があれば、再開したいと思っているブラクール組合店舗(写真)などがその対象になるでしょう。



現在は閉鎖した店舗(小林氏と住民)

フィリピンで貧しい女性たちにマイクロファイナンス(無担保の小規模金融)を行い、その取り組みが成功している最大のNGOがCARD-NGOです(CARDはCenter for Agriculture and Rural Developmentの略)。専務理事のサルミエントさんが来日し、勉強会が行われました。

フィリピンの貧困世帯数は2002年の調査で580万世帯。そのうちマイクロファイナンスを受けている世帯は170万世帯だそうです。1988年に始まったCARDは現在までに約39万世帯に融資しています。すでに返済が終わり、自立した世帯は3万世帯です。ここで「世帯」で数えるのは、CARDのメンバーとなり融資を受けると、貯蓄と生命保険加入が奨励され、家族全員が被保険者となるからです。

貯蓄することの大切さは当初から取り入れられ、最初は週1ペソ、2ペソから始まり、今は週40ペソを貯蓄することが目標になっています。これは、

貧しい→貯金できない→投資できない→貧しい

という悪循環を断ち切るためです。

前号でご紹介したバングラデシュのグラミン銀行とも協力関係にあり、スタッフを研修に派遣しています。フィリピン国内の支部は302ヶ所。カンボジアとベトナムにも支部を設立し、現地の人びとのためにマイクロファイナンスを開始しています。お話を伺ってCARD独自のユニークな点だと思ったのは、

- *グループではなく、個人への融資
- *NGO支部がしっかりしてくると政府へ申請して銀行に格上げし、NGO支部は新たに援助が届かない地域に移る
- *メンバーはCARDの株を購入することができ、株主となり、配当金を受け取れる

などがあります。

現在の資産総額は研究所、研修所などのグループ機関を合わせて約59億円のCARD。それでもまだまだ支援の届かない人びとへ融資を行うには足りないそうです。確かにミンダナオには数ヶ所にしか支部がありません。そのためPFPPの取り組みが注目されます。

強調したいのは、マイクロファイナンスが商業銀行と異なるのは、商業銀行が相手にしない土地を持たない貧しい人びとに無担保で融資することです。その最初の1000ペソが自立を促し、働くことによる自尊心を作り上げています。(九島)